

甲斐市立竜王北中学校 自己評価書（前期・後期）

平成30年1月31日（水）作成

校長 今村 淳一

記述者 教頭 小林 雅人

学校教育目標 「豊かな心を持ち 自ら学び たくましく生きる生徒の育成」

学校経営方針

- （１）豊かな人間性の育成
- （２）確かな学力を育む指導と評価
- （３）体力向上と健康安全意識の向上
- （４）愛情と信頼に基づく生徒指導の充実
- （５）安全安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくり

分析・作成にあたって

（教職員アンケートについて）

- ・昨年度までや前期は、A（そう思う）B（ややそう思う）であったが、後期はA（とてもそう思う）B（そう思う）に変更された。したがって、前期と後期とを単純には比較出来ない。
- ・回答群A（とてもそう思う）とB（そう思う）をまとめて「肯定的な回答」とし、回答率が85%を上回るものは「達成ができている」として評価する。「肯定的な回答」が85%を下回る項目は、現在の本校の課題とする。
- ・A：4点、B：3点、C：2点、D：1点として回答を数値化し、各項目の平均値も算出した。「平均値」が3.0以下の項目は、現在の本校の課題とする。
- ・前期と比べ10ポイント以上差がある項目は、現在の本校の課題とする。
- ・「市」とあるのは、甲斐市の中学校全体（5校）のことである。

（生徒アンケートについて・保護者アンケートについて）

- ・教職員アンケートと関連がある項目については適宜取り上げる。
- ・保護者アンケートのEは、「わからない」という選択肢である。

1 全体の評価結果

- ・肯定的な回答が49項目中42項目で90%を超え、教職員が高い意識で教育活動に取り組んでいることが見て取れる。

＜本校のオリジナル項目＞

- I⑧「多忙化解消のための取組の成果」（75.0%）
- III⑨「習得した知識・技能を活用する授業」（100.0%）
- III⑩「考え、議論する授業の実施」（88.2%）
- IV⑦「道徳の時間を中心とした生徒の豊かな心の育成」（95.2%）
- VI③「読書に積極的に取り組むような指導」（100.0%）
- VI④「学校行事に進んで取り組むような指導」（100.0%）
- VI⑤「強化週間等を活かした指導」（100.0%）
- VI⑥「生徒が発表活動に主体的に取り組むような指導」（100.0%）
- VI⑦「小中連携を意識した教育活動」（100.0%）
- VI⑧「北中ボードの活用」（100.0%）

・I⑧・III⑩・VI⑦・VI⑧については、本年度の後期から設定した項目である。I⑧とIII⑩は今日的課題であるが、数値的にも今後の取組の必要性を感じる。VI⑦とVI⑧については本校で現在力を入れて取り組んでいる内容であり、教職員の意識の高さが伺える。

<肯定的回答率 85%あるいは平均値 3.0 を下回る項目> ※現状の課題となるもの

- I ⑧「多忙化解消のための取組の成果」 (75.0%・平均値 2.9)
- II ②「危機管理マニュアルの理解」 (平均値 3.0)
- III ④「個に配慮した授業」 (平均値 3.0)
- III ⑥「教材教具、備品等を活用した授業」 (82.4%)
- III ⑩「考え、議論する授業」 (平均値 3.0)
- V ①「地域の人材や地域の教育力を生かす指導」 (63.6%、平均値 2.7)
- V ②「保護者・地域の願いを聞く等、情報収集の機会の確保」 (77.3%、平均値 3.0)

<肯定的な回答が、前期に比べて 10 ポイント以上の差があった項目> ※現状の課題となるもの

- II ②「危機管理マニュアルの理解」 -12.5 ポイント (後期 87.5% 前期 100.0%)
- V ①「地域の人材や地域の教育力を生かす指導」 -19.7 ポイント (後期 63.6% 前期 83.3%)
- V ②「保護者・地域の願いを聞く等、情報収集の機会の確保」 -10.2 ポイント (後期 77.3% 前期 87.5%)

2 項目ごとの評価結果 (達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について (教職員用アンケートから)

達成状況

- 全8項目のうち7項目で肯定的な回答が90%以上(うち6項目は100%)である。
- 新設した「多忙化解消のための取組の成果」(平均値) 2.9 (肯定的な回答) 75.0%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
8	あなたの学校は、多忙化解消のための取組で成果が表れてきている。 (平均値:2.9)	本校	12.5	62.5	25.0	0.0	75.0
		市	—	—	—	—	—
		前期本校	—	—	—	—	—

改善策

- 校内企画委員会が多忙化解消検討委員会を兼ね、職員の業務改善について話し合う機会とする。
- 提案を効率化し、会議等の効率化を図る。連絡事項についてはパソコンの掲示板を利用する。
- 行事が終わるごとに振り返りをし、PDCAサイクルを確立する。3年間を見通した計画を立て、各行事のねらいを精選し、内容のスリム化、業務の効率化を図る。
- 部活動については、平日1日と土日のどちらかを原則休むようにする。年間指導計画を提出してもらい、適正な運営状況の点検および指導を管理職が行う。
- 「教員の多忙化軽減意識改革のための自己評価リスト10項目」を学期に1回行い、教職員の意識改革をしていく。
- P T A組織を有効に使いながら、学校運営を支えてくれる地域人材を探す。また、職場体験のデータとしても地域で協力してくれる職場をデータバンクとして年々更新していく。
- 月に2回「きずなの日」を設け、生徒と触れ合う時間をつくり出すとともに、定時退勤日とする。この日は、部活動や会議等を行わない。

II 学校運営について (教職員用アンケートから)

達成状況	8 項目中 7 項目で肯定的な回答が 90%を超えている。 「危機管理マニュアルの理解」(平均値) 3.0 (肯定的な回答) 前期比 -12.5 ポイント								
	番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B	
	2	あなたは、危機管理(防犯、防災、事件、事故等)マニュアルを理解している。 (平均値:後期 3.0、前期 3.3)	本校	12.5	75.0	12.5	0.0	87.5	
			市	24.1	67.7	8.2	0.0	91.8	
			前期本校	33.3	66.7	0.0	0.0	100.0	
改善策	※本年度は実践的な避難訓練やシェイクアウト訓練を実施したり、ワンペーパーのマニュアルを教室に掲示したりした。前期と後期の A・B の基準が違うために単純には比較出来ないが、市中学校全体と比べても少し低い結果である。								
	危機管理関係のマニュアルについては、年度始めの職員会議等を利用したり防災訓練等の実践の場を捉えたりして、時間をかけて内容の周知徹底に努めていく。								

Ⅲ 学習指導について（教職員アンケート、生徒用アンケート、保護者用アンケートから）

- ・ 10項目中7項目で肯定的な回答が90%を超えている。
- ・ 肯定的な回答率及び平均値が低い項目があり、課題である。

【授業について】

- ・ 「個に配慮した授業」（平均値）3.0

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、個に配慮した授業を行っている。 (平均値:後期3.0、前期3.1)	本校	11.1	77.8	11.1	0.0	88.9
		市	32.3	58.6	9.0	0.0	90.9
		前期本校	18.7	68.8	12.5	0.0	87.5

- ・ 「教材・教具等を活用した授業」（肯定的な回答）82.4%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
6	あなたは、教材教具や備品等を活用した授業を行っている。 (平均値:後期3.2、前期3.6)	本校	41.2	41.2	11.8	5.9	82.4
		市	46.7	43.8	9.5	0.0	90.5
		前期本校	47.4	42.1	10.5	0.0	89.5

- ・ 「考え、議論する授業」（平均値）3.0

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
10	あなたは、「考え、議論する授業」を行っている。 (平均値:後期3.0)	本校	11.8	76.5	11.8	0.0	88.2
		市	—	—	—	—	—
		前期本校	—	—	—	—	—

※本校校内研のテーマは「自ら学び、考え、判断し、心を磨いていく生徒の育成 ～考え、議論する授業の実践研究を通して～」である。研究指定を受けている「道徳」だけでなく、全教科において「考え、議論する授業」を実践することで、学校教育目標を達成しようとしている。

＜教職員アンケートと生徒アンケートの相関＞

(教職員アンケートから)

- ・ 「学びの意欲を喚起する授業」（肯定的な回答）94.7%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
2	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。 (平均値:後期3.2、前期3.3)	本校	26.3	68.4	5.3	0.0	94.7
		市	39.6	56.7	3.7	0.0	96.3
		前期本校	37.5	56.3	6.3	0.0	93.8

- ・ 「基礎・基本の定着を図る授業」（肯定的な回答）100%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
3	あなたは、基礎・基本の定着を図る授業を行っている。 (平均値:後期3.7、前期3.8)	本校	66.7	33.3	0.0	0.0	100.0
		市	59.4	38.4	2.2	0.0	97.8
		前期本校	81.3	18.7	0.0	0.0	100.0

※これらの項目に対する肯定的な回答の割合が高いことから、「意欲を引き出す授業」、「わかる授業」を行っているとして自己認識している教師の姿がうかがえる。

(生徒アンケートから)

- ・ 「学校の授業が楽しいですか」（肯定的な回答）88.9%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
5	学校の授業は楽しいですか。 A とても楽しい B 楽しい C あまり楽しくない D 楽しくない	本校	34.2	54.7	10.3	0.9	88.9
		1年	43.7	47.1	9.2	0.0	90.8
		2年	32.4	55.4	10.8	1.4	87.8
		3年	24.7	63.0	11.0	1.4	87.7
		市	31.9	53.1	12.3	2.7	85.0

・「先生はよく勉強を教えてくださいか」（肯定的な回答）98.7%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
6	先生はよく勉強を教えてくださいか。 A よく教えてくれる B 教えてくれる C あまり教えてくれない D 教えてくれない	本校	60.7	38.0	1.3	0.0	98.7
		1年	67.8	29.9	2.3	0.0	97.7
		2年	59.5	40.5	0.0	0.0	100.0
		3年	53.4	45.2	1.4	0.0	98.6
		市	57.0	40.8	1.8	0.4	97.8

※これらの回答から、学年が上がるにつれて授業が楽しく感じられない生徒が若干増えてしまうことがわかる。しかし、生徒は「先生はよく勉強を教えてくれる」と感じている。その期待にさらに応えていきたい。

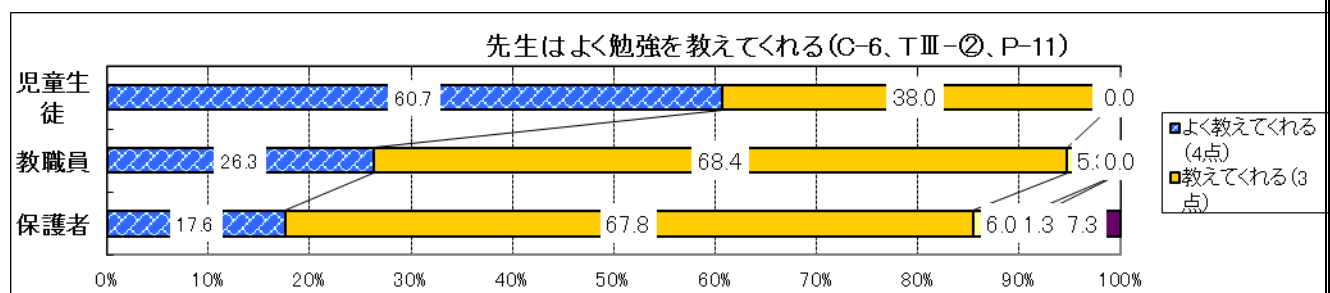
（保護者アンケートから）

・学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。（肯定的な回答）85.4%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
11	学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。 A とても思う B 思う C あまり思わない D 思わない E わからない	全校	17.6	67.8	6.0	1.3	7.3	85.4
		1年	20.7	67.8	4.6	1.1	5.7	88.5
		2年	14.5	73.7	3.9	0.0	7.9	88.2
		3年	17.1	61.4	10.0	2.9	8.6	78.5
		市	12.4	68.4	10.0	1.6	7.6	80.8

※この回答から、「子どもにしっかりと学力を身につけてほしい。そのために、今以上に先生たちにわかりやすい授業を行ってもらいたい」という保護者の我が子への願いと学校への期待がうかがえる。

<生徒・教職員・保護者との相関>



※これらの回答から、本校の生徒と教師が良好な関係を作りながら授業を行っていることがわかる。

（教職員アンケートから）

・「質問や発言が出てくる授業を行っていますか」（肯定的な回答）100%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
7	あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。 (平均値:後期 3.2、前期 3.6)	本校	23.5	76.5	0.0	0.0	100.0
		市	39.4	58.3	2.3	0.0	97.7
		前期本校	62.5	31.3	6.3	0.0	93.8

（生徒アンケートから）

・「授業中に発言や発表をしますか」（肯定的な回答）69.0%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
11	授業中に発言や発表をしますか。 A よくする B する C あまりしない D しない	本校	33.2	35.8	27.6	3.4	69.0
		1年	40.7	37.2	19.8	2.3	77.9
		2年	31.5	43.8	24.7	0.0	75.3
		3年	26.0	26.0	39.7	8.2	52.0
		市	35.0	36.0	22.3	6.7	71.0

※これらの回答から、「発言や質問」に関する教師の意識と生徒の実態に大きな隔たりがあることがわかる。この結果を真摯に受け止め、発言者が固定しないような配慮も含め、授業改善に努めていく。

【宿題・家庭学習について】

(教職員アンケートから)

- ・「宿題や家庭学習に対する指導を行っていますか」(肯定的な回答) 94.4%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
8	あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。 (平均値:後期 3.4、前期 3.6)	本校	44.4	50.0	5.6	0.0	94.4
		市	38.3	50.4	10.5	0.8	88.7
		前期本校	62.5	37.5	0.0	0.0	100.0

(生徒アンケートから)

- ・「宿題を忘れずにしますか」(肯定的な回答) 87.1%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
12	宿題を忘れずにしていますか。 A よくしている B している C あまりしていない D してしない	本校	51.3	35.8	11.2	1.7	87.1
		1年	46.0	44.8	9.2	0.0	90.8
		2年	64.4	20.5	12.3	2.7	84.9
		3年	44.4	40.3	12.5	2.8	84.7
		市	50.2	39.4	8.2	2.2	89.6

(保護者アンケートから)

- ・「お子さんは宿題を忘れずにしていますか」(肯定的な回答) 81.2%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
12	お子さんは、宿題(課題)を忘れずにしていますか。 A いつもしている B だいたいしている C あまりしていない D していない E わからない	全校	42.1	39.1	10.2	4.3	4.3	81.2
		1年	44.3	36.4	13.6	3.4	2.3	80.7
		2年	47.4	39.5	6.6	3.9	2.6	86.9
		3年	33.8	42.3	9.9	5.6	8.5	76.1
		市	39.9	44.1	7.8	3.0	5.2	84.0

※これらの回答から、宿題については、教職員の指導に対して生徒も保護者も概ね「忘れずにしている」と捉えていることがわかる。

(生徒アンケートから)

- ・「平日、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか」(肯定的な回答) 76.8%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
13	平日、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。 (1年:70分、2年:80分、3年:90分) A よくしている B している C あまりしていない D してしない	本校	30.0	46.8	16.7	6.4	76.8
		1年	32.2	47.1	11.5	9.2	79.3
		2年	28.8	49.3	15.1	6.8	78.1
		3年	28.8	43.8	24.7	2.7	72.6
		昨年度本校	26.0	41.9	23.3	8.8	67.9
		市	26.9	44.8	21.8	6.5	71.7

(保護者アンケートから)

- ・「お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか」(肯定的な回答) 55.5%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
13	お子さんは、宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか。 A いつもしている B だいたいしている C あまりしていない D していない E わからない	全校	15.8	39.7	29.9	13.2	1.3	55.5
		1年	10.2	48.9	27.3	12.5	1.1	59.1
		2年	20.0	29.3	36.0	12.0	2.7	49.3
		3年	18.3	39.4	26.8	15.5	0.0	57.7
		昨年度	15.3	34.9	34.1	13.5	2.2	50.2
		市	16.8	38.5	30.3	12.8	1.6	55.3

※これらの回答から、家庭学習(宿題以外)については、教師の指導が十分に生徒に伝わっていない様子がうかがえる。しかし、昨年度に比べると、改善が図られてきている。

【授業について】

- 主体的に授業へ参加し、意欲的に発言や発表をしようとする態度をいかに育成していくか、個に応じた指導や支援をいかに行っていくかに課題がある。この2点を重点に、学校として、引き続き、「わかる授業」の確立を目指し、授業改善に取り組んでいく必要がある。具体的には、県教委から示されている“授業改善のための7つの視点”の日常化や“言語活動ハンドブック”の活用、校内研究等を活用した組織的な研究、学習及び実践を行う。
- 校内研究においては、山梨県の道德教育推進校として指定を受け、来年の本公開に向けて研究を積み重ねてきている。平成31年度から教科となる「道德」だけでなく、全教科において「考え、議論する授業」を展開出来るよう更に実践研究を行っていきたい。そして、「北中ボード」やICTを活用して、教育効果を上げていく。

【家庭学習・自主学習について】

- まだまだ十分な時間が確保されていない現状がある。「北中ノート」の継続により、授業と家庭学習の有機的な結びつきをさらに追求し、家庭学習の定着を図っていく。県教委から示されている“学びの甲斐善八か条”も活用していく。
- 学習量や取組時間の目安（1年生70分、2年生80分、3年生90分）についても、学校として、生徒や保護者への意識の啓発や全校的な取組を行っていく。生活習慣調査「ステップアップ大作戦」の結果を活用し、日ごろから、家庭生活での有効な時間の使い方を意識し、自分で時間の管理ができる力を一人ひとりの生徒に身につけさせていく。

IV 生徒指導について（教職員用アンケート、生徒用アンケート、保護者用アンケートから）

- 7項目全てで肯定的な回答が95%以上である。そのうち、5項目が100%である。

<生徒指導に関する生徒、保護者の意識>

【きまりや約束ごとについて】

(生徒アンケートから)

- 「学校のきまりや約束ごとを守っていますか」(肯定的な回答率) 96.5%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
21	あなたは、学校のきまりや約束ごとを守っていますか。 A よく守っている B 守っている C あまり守っていない D 守っていない	全校	61.3	35.2	2.2	1.3	96.5
		1年	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0
		2年	63.0	32.9	2.7	1.4	95.9
		3年	61.0	31.9	4.2	2.8	92.9
		市	57.8	38.8	2.6	0.7	96.6

※この回答から、本校の生徒は概ねきまりや約束ごとを守っていることがわかる。

【相談できる友達・先生について】

- 「困ったことがあったら相談できる友達はいますか」「いない」2.6% 6人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
3	困ったことがあったら相談できる友達はいますか。 A いる C あまりいない D いない	全校	87.6		9.9	2.6	
		1年	89.5		8.1	2.3	
		2年	93.2		6.8	0.0	
		3年	79.5		15.1	5.5	
		市	90.3		8.2	1.5	

※この回答から、多くの生徒は困ったことがあったら相談できる友だちがいることがわかる。しかし、全校で6人の生徒が「いない」と答えている。

- ・「困ったことがあったら相談できる先生はいますか」「いない」 3. 9% 9人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
10	困ったことがあったら相談できる先生はいますか。 A いる C あまりいない D いない	全校	76.0		20.2	3.9	
		1年	80.5		16.1	3.4	
		2年	78.4		18.9	2.7	
		3年	68.1		26.4	5.6	
		市	72.8		21.7	5.5	

(保護者アンケートから)

- ・「お子さんのことで、相談できる先生がいますか」「いない」 6. 9% 16人

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率
15	お子さんのことで、相談できる先生がいますか。 A いる C あまりいない D いない E わからない	全校	65.2		17.2	6.9	10.3
		1年	62.8		17.4	10.5	9.3
		2年	71.1		13.2	5.3	10.5
		3年	62.0		22.5	4.2	11.3
		市	62.2		21.7	7.5	8.6

※これらの回答から、C（あまりいない）とD（いない）という生徒および保護者が全体の四分の一を占めていることがわかる。

【睡眠時間】

(生徒アンケートから)

- ・「月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか」 単位：人

番号	質問内容		A	B	C	D	E	F	G
15	月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。 A 午後8時前 B 午後9時前 C 午後10時前 D 午後11時前 E 午前0時前 F 午前1時前 G 午前1時過ぎ	全校	3	6	41	95	54	19	16
		1年	1	5	27	43	7	3	1
		2年	1	1	11	36	17	5	3
		3年	1	0	3	16	30	11	12
		市	18	50	348	779	489	184	86

(保護者アンケートから)

- ・「お子さんの月曜日から金曜日までの平均睡眠時間はどのくらいですか」 単位：人

番号	質問内容		A	B	C	D	E	F	G	H
9	お子さんの月曜日から金曜日までの平均睡眠時間はどのくらいですか。 A 10時間より多い B 9時間くらい C 8時間くらい D 7時間くらい E 6時間くらい F 5時間くらい G 5時間より少ない H わからない	全校	2	8	68	103	47	6	1	0
		1年	1	5	34	36	11	1	0	0
		2年	1	2	21	31	18	3	0	0
		3年	0	1	13	36	18	2	1	0
		市	4	76	585	859	342	51	6	6

※これらの回答から、夜遅くまで起きていて、睡眠時間が少ない生徒が結構いることがわかる。

- 改善策
- ・相談できる友達や先生がいない生徒が少数ではあるが存在する。このことを職員一人ひとりが深く受け止め、学校として、日頃の生徒との関わりを見つめ直し、よりよい関係づくりを今後も地道に進めていく。
 - ・お子さんのことで相談できる先生がいない保護者が存在する。子どもの健やかな成長のためには、家庭と学校の連携が必要である。教師から気軽に保護者の方に声をかけ、相談しやすい環境づくりに努めていく。
 - また、生徒と向き合い、保護者とのコミュニケーションを取ることでできる時間的なゆとりを生み出せる職場づくりをしていく必要もある。
 - ・睡眠時間については保健指導や「ステップアップ大作戦」を通して個々に考えさせて、改善をしていく。

V 地域との連携について（教職員アンケート、保護者アンケートから）

- ・ 8 項目中、肯定的な回答が 90%を超えた項目 6 項目である。
- ・ 肯定的な回答率及び平均値が低い項目（肯定率 85%以下、平均値 3.0 以下）があり、課題である。

地域の教育力の活用、地域の要望等について】

- ・ 「地域人材や施設を活用した教育活動」（肯定的な回答）63.6%、前期比-19.7ポイント、平均値2.7

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。（平均値：後期 2.7、前期 2.9）	本校	13.6	50.0	31.8	4.5	63.6
		市	14.8	52.3	26.2	6.7	67.1
		前期本校	12.5	70.8	12.5	4.2	83.3

※前期と後期とで A と B の基準が違いため単純には比較できないが、前期に比べても、また、市全体のデータと比べても低い数値となっている。

- ・ 「保護者や地域の学校への要望を聞くなど情報収集の機会」

（肯定的な回答）77.3%、前期比-10.2ポイント、平均値3.0

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
2	あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。（平均値：後期 3.0、前期 3.0）	本校	27.3	50.0	13.6	9.1	77.3
		市	21.2	58.3	16.6	4.0	79.5
		前期本校	20.8	66.7	8.3	4.2	87.5

※単純には比較できないが、前期に比べても、また、市全体のデータと比べても低い数値となっている。

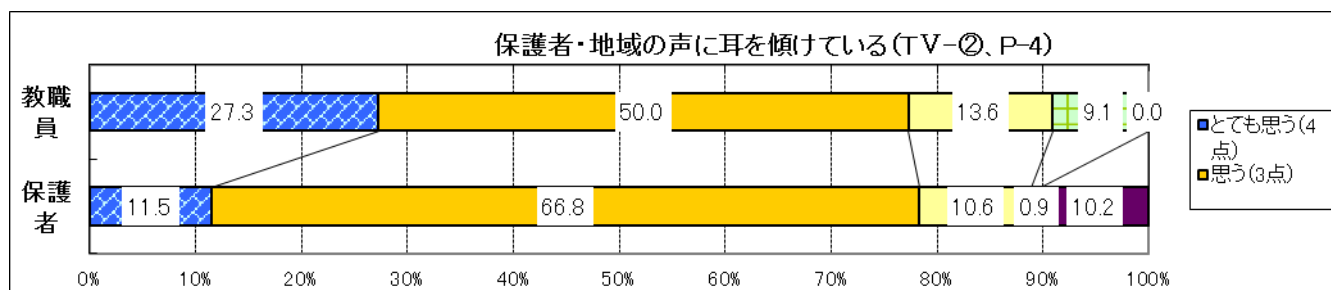
（保護者アンケートから）

- ・ 「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」（肯定的な回答）78.3%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
4	学校は、保護者・地域住民の声に耳を傾けていると思う。 A とても思う B 思う C あまり思わない D 思わない E わからない	全校	11.5	66.8	10.6	0.9	10.2	78.3
		1 年	12.5	65.9	9.1	0.0	12.5	78.4
		2 年	10.5	68.4	11.8	2.6	6.6	78.9
		3 年	11.3	66.2	11.3	0.0	11.3	77.5
		市	6.3	67.2	14.2	1.7	10.5	73.5

※約 1 割の保護者は、C（あまり思わない）D（思わない）と回答している。

<生徒・教職員・保護者との相関>



※これらの回答から、「保護者や地域の声は今以上に聞いていく必要がある」という点で、教職員と保護者の認識が一致していることがわかる。

【PTA活動について】

・「PTA活動への主体的な参加」（肯定的な回答）91.7%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	あなたは、PTA活動に主体的に参加している。 (平均値:後期 3.4、前期 3.3)	本校	50.0	41.7	8.3	0.0	91.7
		市	45.2	45.2	9.0	0.6	90.4
		前期本校	37.5	58.3	4.2	0.0	95.8

(保護者アンケートから)

・「PTA活動に参加していますか」（肯定的な回答）73.6%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
20	あなたは、PTA活動に参加していますか。 A よく参加している B だいたい参加している C あまり参加していない D 参加していない	全校	17.4	56.2	21.7	4.7		73.6
		1年	21.6	46.6	27.3	4.5		68.2
		2年	15.8	63.2	19.7	1.3		79.0
		3年	14.1	60.6	16.9	8.5		74.7
		市	15.3	55.9	23.4	5.5		71.2

※これらの回答から、PTA活動に対して教職員は約9割が主体的に参加しているが、保護者は7割強であることがわかる。

改善策

- ・これからの学校には、学校・地域・保護者が一体となって子どもの成長を支えていく“地域とともにある学校”づくりの視点が必要である。中学生のこの時期に、多くの大人との出会いの場を設け、多様な体験を通してさまざまな価値観と出会わせることが豊かな心の育成につながる。また、特色ある学校づくりの観点からも、地域の資源（人・物・歴史や地理の特性など）を生かした“社会に開かれた教育課程”が求められている。こうした点を教職員全員が認識し、各教科や総合・道徳・特別活動の担当で、積極的に地域人材や施設の活用を図っていく。今後「コミュニティスクール」への移行を考えたときにも、大切な視点である。
- ・この学校評価も保護者の考え方や学校に対する評価を知る大切な機会である。また、引き続きPTA学校委員会や学校評価委員会を活用し、保護者や地域の学校に対する願いや要望を聞く機会を充実させていきたい。
- ・強歩大会やPTAバザーでは、多くの保護者の方に協力をしていただいた。PTA活動については、新たな活動を増やしていくという方向ではなく、今ある各専門部の活動の質的な充実を図っていくことで、魅力あるPTA活動にしていきたい。

VI 学校の特色に関して（職員用アンケート、生徒アンケート、保護者アンケートから）

- ・新設した2項目（「小中連携を意識した教育活動」「北中ボードの活用」）を含め、全8項目で肯定的な回答が100%である。

<生徒アンケート、保護者アンケートとの相関>

【あいさつについて】

・「あいさつの指導」（肯定的な回答）100%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
1	児童・生徒が進んで挨拶するよう、指導に努めている。 (平均値:後期 3.9、前期 4.0)	本校	91.7	8.3	0.0	0.0	100.0
		市	72.4	25.6	1.3	0.6	98.0
		前期本校	100	0.0	0.0	0.0	100.0

(生徒アンケートから)

・「地域の人へのあいさつ」(肯定的な回答) 95.7%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
18	地域の人と出会ったら挨拶をしていますか。 A よくしている B している C あまりしていない D していない	全校	64.5	31.2	3.9	0.4	95.7
		1年	69.8	26.7	3.5	0.0	96.5
		2年	64.4	34.2	1.4	0.0	98.6
		3年	58.3	33.3	6.9	1.4	91.6
		市	56.5	35.3	7.0	1.2	91.8

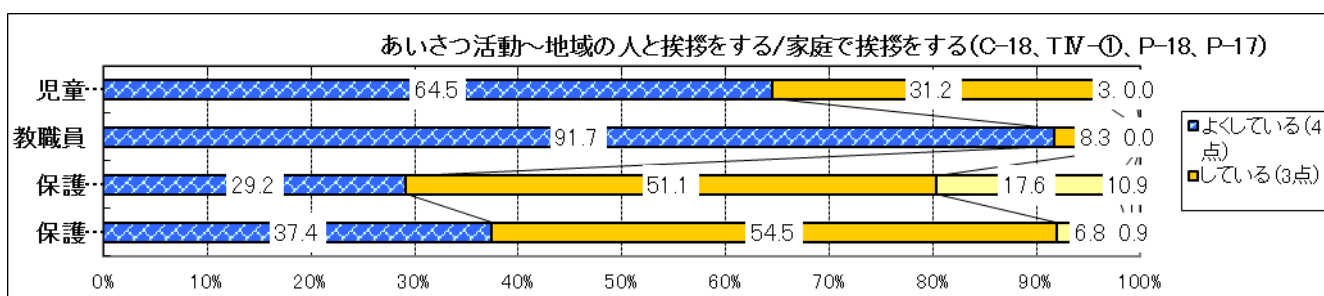
(保護者アンケートから)

・「あいさつの指導」(肯定的な回答) 80.3%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
18	ご家庭では、お子さんに地域の人々と出会ったら挨拶をするように言っていますか。 A よく言っている B 言っている C あまり言っていない D 言っていない E わからない	全校	29.2	51.1	17.6	1.3	0.9	80.3
		1年	37.5	45.5	15.9	0.0	1.1	83.0
		2年	28.0	54.7	16.0	1.3	0.0	82.7
		3年	20.0	54.3	21.4	2.9	1.4	74.3
		市	31.8	52.1	13.6	2.2	0.3	83.9

・「家族で互いに挨拶」(肯定的な回答) 91.9%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
17	ご家庭では、家族で互いに挨拶をするようにしていますか。 A よくしている B している C あまりしていない D していない E わからない	全校	37.4	54.5	6.8	0.4	0.9	91.9
		1年	42.0	51.1	5.7	0.0	1.1	93.1
		2年	38.2	56.6	5.3	0.0	0.0	94.8
		3年	31.1	56.3	9.9	1.4	1.4	87.4
		市	37.2	55.4	6.5	0.7	0.3	92.6



※これらの回答から、学校でも家庭でも、子どもに対して、あいさつの指導を心がけ、また、生徒自身も地域の方へのあいさつを心がけていることがわかる。

【行事指導について】

・「行事への積極的な参加の指導」(肯定的な回答) 100%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
4	紫龍祭・強歩大会・合唱発表会等に生徒が進んで取り組むよう、指導に努めている。 (平均値:後期 4.0、前期 4.0)	本校	100	0.0	0.0	0.0	100.0
		市	75.8	24.2	0.0	0.0	100.0
		前期本校	100	0.0	0.0	0.0	100.0

(保護者アンケートから)

・「行事への熱心な取組」(肯定的な回答) 97.9%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	E率	A+B
23	学校は、紫龍祭・強歩大会・合唱発表会等の行事に力を取り組んでいると思う。 A とても思う B 思う C あまり思わない D 思わない E わからない	全校	50.9	47.0	0.9	0.0	1.3	97.9
		1年	51.7	43.7	1.1	0.0	3.4	95.4
		2年	53.9	46.1	0.0	0.0	0.0	100.0
		3年	46.5	52.1	1.4	0.0	0.0	98.6

※これらの回答から、行事への取組については、教職員と保護者が同じ認識でいることがわかる。

【読書指導について】

・「読書指導」(肯定的な回答) 100%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
3	生徒が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている。 (平均値:後期 4.0、前期 3.9)	本校	95.8	4.2	0.0	0.0	100.0
		前期本校	87.5	12.5	0.0	0.0	100.0

(生徒アンケートから)

・「一日あたりの読書時間」 単位:人

番号	質問内容		A	B	C	D	E	F
19	月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、一日あたりどのくらいの時間、読書を行いますか。 A 2時間以上 B 1時間以上1時間59分 C 30分以上59分 D 10分以上29分 E 1分以上9分 F 全くしない	全校	13	21	58	74	23	45
		1年	7	8	20	31	7	14
		2年	4	9	19	23	6	13
		3年	2	4	19	20	10	18
		市	95	178	429	493	230	528

※甲斐市全体の中学生で読書を「全くしない」が528人もいる。本校は45人である。

(保護者アンケートから)

・「お子さんの一日あたりの読書時間」 単位:人

番号	質問内容		A	B	C	D	E	F
22	お子さんは家で平日一日あたりどのくらいの時間、読書を行いますか。 A 2時間以上 B 1時間以上1時間59分 C 30分以上59分 D 10分以上29分 E 1分以上9分 F 全くしない	全校	0	18	45	56	48	67
		1年	0	6	18	23	14	27
		2年	0	8	17	17	14	20
		3年	0	4	10	16	20	20
		市	27	126	331	434	394	616

※生徒と保護者には、とらえ方の違いがあることがわかる。

【小中連携について】(肯定的な回答) 100%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
7	小中連携を意識した教育活動に取り組んでいる。 (平均値:後期 3.6)	本校	58.3	41.7	0.0	0.0	100.0
		前期本校	—	—	—	—	—

※教職員が小中連携について、意識が高いことがわかる。

【北中ボードの活用】(肯定的な回答) 100%

番号	質問内容		A率	B率	C率	D率	A+B
8	あなたは、北中ボードを活用している。 (平均値:後期 3.5)	本校	47.1	52.9	0.0	0.0	100.0
		前期本校	—	—	—	—	—

※教職員は、北中ボードを活用し、授業を行っていることがわかる。

- ・あいさつは人間関係の第一歩である。今後は、より気持ちをこめてあいさつできるように指導していく。
- ・行事を通して豊かな経験をさせることが生徒一人ひとりの成長を促すことになる。各行事の目的や生徒のどんな面を伸ばさせていくかといったことについて、教職員が共通理解を深め、生徒と力を合わせて学校が一つとなって行事に取り組んでいきたい。そして、その過程を通して、成就感や達成感を味わわせ、自己有用感を醸成していく。
- ・読書は、生徒の心の成長のために必要不可欠なものである。学校では毎朝10分間の「朝読」を実施し、読書週間などには「お薦めの本」の紹介など、図書委員会を中心に行っている。その成果が表れてきているが、家では全く読まないという生徒もいる。本好きな生徒をこれからも育てていきたい。
- ・小中連携は、近接する竜王北小学校とここ数年行ってきた。小中連携委員会を持ち、本年も合同挨拶運動、合唱交換会、読み聞かせ活動、出前授業、合同校内研、相互授業参観などを行った。お互いに負担にならない程度に来年度以降も継続していきたい。それが、中一ギャップを解消し、不登校生徒を少なくすることに必ず繋がっていく。
- ・「北中ボード」とは市販のものではなく、自作のホワイトボードである。各教科、道徳、学活、総合の時間に使うように、普通教室だけでなく特別教室にも常備されている。小グループで話し合う時やその考えを発表するときに使われる。教職員も生徒も次第にその扱いに慣れ、スムーズに使いこなせるようになってきた。今後はさらに有効な使用方法について研究を深めていきたい。
- ・今後も、生徒の実態や地域の特性を踏まえ、教職員の個性を活かしながら、特色ある学校づくりを推進していく。そのためにも、PDCAサイクルによる行事や学校運営を行っていく。

3 まとめ

<成 果>

- ・教職員による自己評価アンケートでは、教職員が高い課題意識を持って教育活動にあたっていることがわかった。
- ・生徒アンケートでは、生徒の実態がわかり、改善の方向性や今後の教育活動、学校経営のあり方を考えていく機会となった。
- ・保護者アンケートでは、本校の教育活動や学校運営についての保護者のとらえ方や見方を把握することができ、子どもを育てる点で同じ立場として、保護者と協働して、教育活動を展開していく上で有意義であった。

<課 題>

- ・項目によっては、教職員と生徒及び保護者のとらえ方や認識に差が見られた。その点については、真摯に受け止め、本校の教育活動を見つめ直す貴重な材料としたい。
- ・改善を図る必要のある項目については、学校全体で知恵を出し合い、合意形成を行い、チームとして取り組んでいく。また、即時に結果が出なくても継続して粘り強く取り組んでいく。
- ・今回の結果をこの1年間の本校の教育活動の結果であると捉え、教職員で共有し、次年度に確実ににつなげていく。